

開発建設部



学生自ら運営を担当

沖縄総合事務局では沖縄の港湾を活用した海辺の自然学校を二月二十八日から三月七日にかけて沖縄本島北部の運天港、宮古島にある平良港、そして石垣島にある日本最南端の重要な港湾石垣港で開催しました。

運天港（二月二十八日）
運天港の海辺の自然学校は、～屋我地の自然と文化、歴史を知るエコツア～というテーマで、名桜大学で観光環境領域を専攻している学生の「コーディネートにより、ビーチコーミング、沖縄愛の病患者の療養施設）見学、干潟観察が行われました。名桜大学で観光環境領域を観察を行いました。今回は同じく

海辺の自然学校は、国土交通省港湾局で実施している自然体験学習プログラムです。海辺の自然については、これまでも緑地、海浜、干潟などの整備など、ハード面の親水空間の形成が行われてきましたが、環境教育推進法の施行などに見られるように自然体験に対する認識が高まりを受けて、港湾空間という市街地から比較的近いところにある身近な自然環境を活用して、子供達に自然体験を提供し、環境学習を行うという取り組みがこの海辺の自然学校です。

沖縄総合事務局では沖縄の港湾を活用した海辺の自然学校を二月二十八日から三月七日にかけて沖縄本島北部の運天港、宮古島にある平良港、そして石垣島にある日本最南端の重要な港湾石垣港で開催しました。

専攻している学生にモニターとして参加してもらい、専門で勉強している立場から様々な感想を頂きました。参加した学生達へのアンケート結果からは、海岸清掃を通じた環境意識の向上や、愛楽園の見学を通じた地元の歴史・文化の理解の向上が見られました。

平良港（二月二十九日）
平良港の海辺の自然学校は、～身近な海辺の自然体験～というテーマで、NPO法人インフォメーションセンターの「コーディネートで行われました。参加したのは地元の小学生達で、トウリバーア地区でシーカヤック体験と自然観察を行いました。今回のシーカヤックは出島方式で整備されたトウリバー

地区に設けられた水路を主なコースとして実施されました。水路はシーカヤックを行うのに適度な広さ・深さがあり、また非常に静穏度が高いため子供達も安心してシーカヤックを楽しむことが出来ました。子供達のアンケート結果には「楽しめた」「またやりたい」などの文字が並び、みんな大満足の様子でした。



シーカヤックを楽しむ小学生



スノーケリングに挑戦する参加者

であり、中には初めてスノーケリングをされた方もいましたが、この時期に海に入れることに大変感動している様子でした。特に、海人（漁師）との交流が心に残ったようで、アンケートには一生の思い出になったと書かれていた方もいらっしゃいました。以上のようにそれぞれ場所、メニュー、対象者などが異なる形で海辺の自然学校が開催されましたが、どれも参加者達には好評であり、沖縄の港湾空間を活用した自然体験学習・エコツア～の可能性が十分にあることが示されました。格好となりました。

沖縄総合事務局では、今後もこうしたプログラムが地域に密着した形で実施されるよう働きかけを行うとともに、自然環境の創出・再生といったハード面だけでなくこうしたソフト面の活動も実施していくたいと考えています。

「海辺の自然学校」沖縄二箇所で開催！

沖縄二箇所で開催！